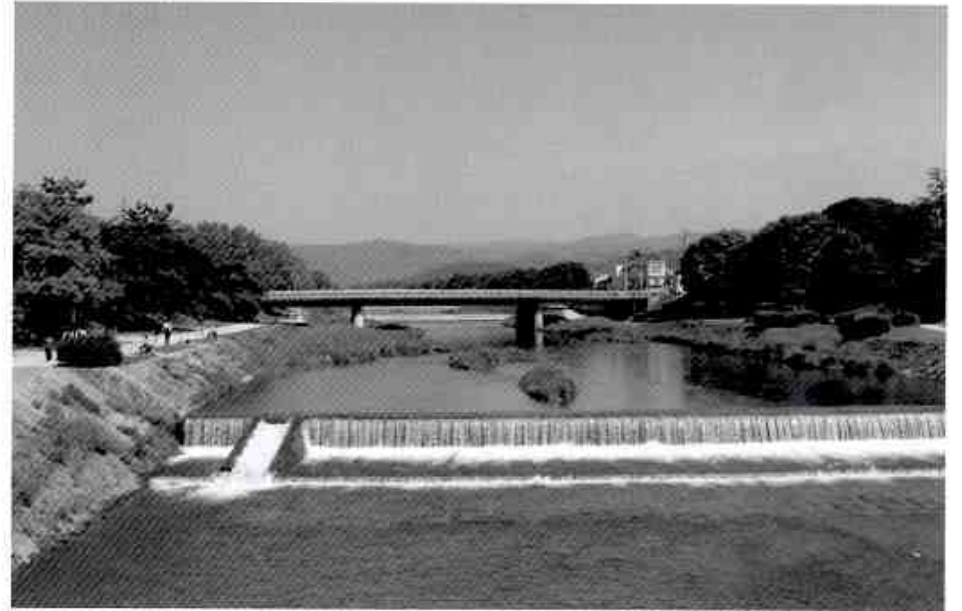


川柳 さいたま

美江賞発表



京都 加茂川

2019年
5月号 (No.714)

日川協加盟

巻頭言

女神とごんじゆ

願法みつる

別段、特定の女性を敬つての随想ではない。天照大神がなぜ女神なのか・・という素朴な疑問である。

世界各地の原始時代から、様々な信仰の対象として自然神が居る・居た・・と記録されている。動物や昆虫や自然現象までもが神とされてきたが、究極の首座は太陽と云うことになりそうだ。そしてこれを擬人化し人格化してくる。

その太陽を人格化した所謂太陽神には、男神も女神もある。そして日本の記紀神話での女神としては、天照大神の他にも長々しいお名前の女神様が、多々在らせられた。

そもそも天照大神が真実、女神であったのか否かも謎だという説もある。今更我々が詮索しても、まさに栓の無い神話である。タダ、そうであった・と思えば良い。

魏志倭人伝に卑弥呼の名がある。そして、記紀の編さんにあたって、実在した推古・持統・元明の各天皇が女帝として当然記録される。この際、古代には女性が祭祀を行う統治スタイルが存在した・とする神話を継承させて、高祖に女神即ち天照大神を据えたのではないかと素人的付度。

伊勢神宮の系統を繋ぐ神社が身近に存在する。女性特有の鋭敏なDNA感覚は、天照大神のそれなのだろうか。

日日是好

願法みつる

女神どの世の付度を御意召すや

女神には薄いヴェールという鎧

お粗末な蛮行ばかり男神

戦場へさっさとお行き男神

色即是空だから今どうするの